

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社 あらた		
事業所名	グループホーム あらた		
所在地	北海道旭川市豊岡8条1丁目3番20号 (電話) 0166-34-1297		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年8月26日

## 【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年7月12日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	22人	常勤	18人, 非常勤 4人, 常勤換算 12.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600円	その他の経費(月額)	18,000~31,000円	
敷金	有( ) 無( )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 無( )	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

### (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	69歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 沼崎病院・豊岡内科整形外科クリニック 医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック・中山歯科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は地域活動に熱い思いを持ちながら同町内に2つグループホームを展開し、地域との交流が自然なかたちで行われている。職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、個々の願いや要望などを真摯に受け止め日々のケアに努めている。庭には植物や野菜づくりを職員と一緒に楽しむなどの交流を楽しんでいる利用者も多い。家族会ができたことにより、家族との連携も良く、利用者アンケートでも「事ある度に連絡を入れてくれるので生活状況が良く分かり、安心して任せられる」、「スタッフの方の質の良さが分かります」との声が多い。ケアサービスを事務長はじめ管理者・職員全員で懸命に実践しており、利用者に合わせた良質なサービスが提供されているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ヒヤリハットの活用と事故報告書のリンクすることが課題となっていたが、今回の調査では月毎の集計表など、様式類の整理を職員間で検討するなど積極的に行われていた。職員研修のスキルアップについては、認知症ケア専門士の取得にチャレンジするなどの前向きな取り組みが認められた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価をするにあたり、全職員が話し合いを持ち自己評価を行ったことにより、職員がより一層家族や地域とのふれあいが大切であることを感じたり、日々のケアを見直すなど、ケアの質の向上に向けた意識が今まで以上に高まっていることが見受けられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域の代表者・有識者・家族・職員で2か月毎、定期的開催されている。時には家族会や町内会と連携し消火訓練や救急救命講習なども行い、事業所と出席者間で情報交換の場としている。また地域や家族からの意見や要望を聴き、運営とケアに活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 面会時に各職員より日々の出来事や健康状態についての報告や出納帳と一緒に各担当者が毎月の暮らしぶりを紹介している手紙には、利用者が自然に発した一声が載っており、ほのぼのとした内容になっている。ホームは些細なことでも話せる雰囲気づくりに配慮し、意見などには迅速に検討や改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事や老人会などには積極的に参加している。火災訓練・救急救命講習にも呼びかけるなど、常に連携することにも努め、顔なじみである運営者が声かけ訪問することで喜ばれている。また地域の幼稚園児がおゆうぎを見せに来たり、近隣の方々が気軽に立ち寄ってくれるなど日常的に良い交流の場となっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はじめ職員は代表者と共に「安心と尊厳を守る環境、地域連携体制への支援」について盛り込み、住み慣れた地域で安心して暮らしを支えるための事業所理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は代表者の「利用者を第一に考えて仕事をする」などの運営の理念や基本方針をミーティング毎に具体的な内容について確認し、共有・実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が町内会の役員を長く担っており、近隣の方々も気軽に声をかけてくれたり、立ち寄っている。また消火訓練や救急救命の講習会などにも呼びかけており、除雪作業も手伝ってくれるなど日常的に交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をするにあたり、全体で意義を理解する話し合いが持たれている。そのことにより日常のケアを見直したり、ケアの質の向上に向けた意識の高まりにもつながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	地域の代表者・有識者・家族・職員で構成し、事業所の現状報告、地域からの意見や家族からの要望を伺うなどし、サービス及びケアの質の向上に活かされている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは役職者が中心となって協力関係を推進し、個別的案件などについてはその都度、介護高齢課や保護課と連絡を取り、意見等を仰いでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時には各職員より日々の生活や健康状態を伝えている。また毎月送られる手紙には利用者が自然に発した一声が載っており、家族が喜ぶ内容になっている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時・食事会などの行事・家族会などで些細なことでも話せる雰囲気づくりに配慮し、意見・要望などには迅速に検討や改善に努めている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	年に数回、焼肉パーティーなどで職員のリフレッシュに取り組んでおり、利用者から離れて気分転換などできる広い休憩室が確保されている。勤務時間や休暇など労働環境を整え離職を抑えている。職員交代時は一ヶ月の引継ぎの期間を設けて緩やかな移行に配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務長・管理者は人材育成について重要視しており外部講師を招き、二つのグループホーム合同での研修や新人スタッフ研修、更にはグループホーム協議会などが主催する研修会に積極的に参加できるよう配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務長・管理者は他法人の事業所との交流や連携の必要性を認識しており、具体的な課題を持った取り組みを行っている。また課題ごとの情報を職員間で学び合い、ケアサービスの質の向上にも活かしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「利用者第一」を目指したグループホームであり、本人・家族の意向や希望を受け止め、生活習慣や環境の違いによる不安を取り除き、他の利用者の輪にスムーズに入れるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のペースに合わせてながら、利用者の能力や得意分野を引き出している。また身体が残存能力も発揮できるように、できることは無理のない範囲でやってもらうなど、人生の先輩として利用者からの知恵も得ながら共に支えあっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの希望や意向を日常の暮らしの中からしっかり把握し、信頼関係を構築している。アセスメントにはセンター方式を取り入れ、利用者本位の生活支援を心がけている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は今年1月からセンター方式を独自にアレンジして、利用者を担当制にし綿密な関係の基に丁寧に作成されている。提案者、ケアマネージャー、本人及び家族などと話し合っってプランを立て、日常生活全般にわたり利用者の意志を尊重した、利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書は3ヶ月に一度定期的に見直しが行われている。個人毎のファイルに見やすくまとめ、随時を含めて心身の状況変化を察知し、都度ケアプランの見直しがスムーズに行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	大きい車両に替え、通院介助やレク・外出などの利用者や家族の要望に、より柔軟に支援している。また地域住民からの介護相談には快く対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向を大切にし、かかりつけ医が遠方であっても受診の支援が行われ、また2～4週に1回の協力医療機関への定期受診や往診もあり、利用者・家族の安心となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における指針」については入所時に説明が行われている。また医療機関と連携して利用者・家族とも段階的に話し合いながら対応していく取り組みを全職員で共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者の強い思いでもあり、利用者の日常生活支援においては常に尊厳を重視し、プライバシーや羞恥心に配慮した言葉遣いや介護が行われている。個人情報などの書類は事務室の書庫に施錠保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何よりも利用者本人の意向を第一にし、無理強いすることなく、その日の体調などを考慮して自由に過ごせるよう柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者との日常会話の中で出された希望を取り入れ、バランスなども配慮している。重度化により調理できる利用者が限られてきたが、得意なメニューの味付けや盛り付けを職員と一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には週2回となっているが、希望があれば他の日にも対応している。浴室は明るく清潔で安全にも配慮し、入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式にて一人ひとりの過去の大きな出来事や生活歴が把握され、習字や折り紙などを職員と共に楽しんでいる。心身がリフレッシュできるようドライブなど外出の機会もつくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望に応じ、職員の同行で近所の喫茶店やレンタルビデオ店に行くなど、個人的な外出にも積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は玄関などに鍵のかけないケアを理解し施錠はしていない。そのために利用者の動向や安全面には十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は年2回、消防署や地域住民の参加協力を得て消火器訓練や火災報知機を鳴らし、またタオルを持って集合場所に集まるなど実践的な避難訓練をしている。また緊急連絡網はホーム近くに住む職員から連絡が入るようなシステムとなっている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>バランスの良い調理に心がけ、食事・飲水の摂取量を記録し、利用者の状態に応じた食事形態の提供をしている。また塩分量などは病院の指導に従って行っている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関前には花壇や菜園があり、ホーム内にも訪問者らを和ませるようなハイビスカスなどが育てられ、楽しめる空間を演出している。採光も十分に取り入れられ、臭いや空気のおどみがなく、温度などにも配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内の家具や調度品は、使い慣れた物を持参し、本人・家族と相談しながら配置している。また出入口には好みでのれんも掛けられるなど、自宅の延長につながるよう、居心地よく過ごされるような工夫をしている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。